

音楽教育と近藤朔風の訳詞曲

— 没後100年に考える —

坂本 麻実子

Music Education and Western Songs translated into Japanese
by KONDO Sakufu

— to the 100th Year after his Death —

SAKAMOTO Mamiko

E-mail : msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：音楽史，音楽教育，近藤朔風，訳詞曲，リート

keywords : Music History, Music Education, KONDO Sakufu, Western Songs translated into Japanese, Lied

1. 近藤朔風没後100年にあたって

2015年(平成27年)は訳詞家として数々の西洋歌曲を日本に紹介した近藤朔風(本名逸五郎。1880-1915, 明治13年-大正4年)の没後100年にあたる。筆者は日本人の愛唱歌の中に訳詞曲があることに関心を持ち、朔風の訳詞曲を調査したが(坂本1997)全容の解明には至っていない。そこで注目したのが小学校、中学校、高等学校の音楽の教科書に採用された朔風の訳詞曲である。採用曲の中で最も親しまれているのは「野ばら」(わらべは見たり/野なかのばら/清らに咲ける/その色愛でつ/飽かず眺む/紅にほふ/野なかのばら)であろう。原曲はゲーテ作詞、シューベルト作曲「野ばら Heidenröslein」である。同じゲーテの詩にウェルナーが作曲した「野ばら Heidenröslein」もシューベルトの「野ばら」と同じ朔風の訳詞で歌われている。朔風訳「野ばら」は西洋の「紅にほふ」バラを歌い上げた初めての日本語歌曲であった(磯田1991:116)。朔風は1909年(明治42年)に出版した『女聲唱歌』の中で「野中の薔薇」(原曲はウェルナーの「野ばら」)を発表し、翌10年(明治43年)に如山堂書店から「野ばらの花」(原曲はシューベルトの「野ばら」)を出版した⁽¹⁾。実は、ウェルナーの「野ばら」は日本初の音楽教科書である音楽取調掛編『小学唱歌集』のうち1883年(明治17年)刊行の第3編第89曲「花鳥」の旋律に使用されていた。しかし「花鳥」は「山ぎわしらみて/雀はなきぬ/はやとくおきい

で/書よめわが子/書よめわが子/書よむひまには/花鳥めでよ」という歌詞がつき、バラとは無関係の内容になっている。明治日本では西洋のバラはまだ一般的ではなく(「薔薇」の読み方ですら「ばら」と「そうび」⁽²⁾の二通りがあった)、教材曲の歌詞には不相当とされたのだろう。『小学唱歌集』第3編第79曲「菊」(現在では「庭の千草」と呼ばれる)も、原曲はアイルランド民謡「夏の名残のばら The Last Rose of Summer」であるが、バラを日本人にはなじみのある菊に替えて歌詞をつけている(庭の千草も虫のねも/かれてさびしくなりにけり/あゝ白菊、あゝ白菊/ひとりおくれてさきにけり)。そもそも日本では野生種のばらは「のいばら(野茨)」、「うばら(茨)」と呼ばれていたものであり、その花は白色、実が赤色である⁽³⁾。さらに日本人は夏の花では同じ白色でも茨の花より卯の花を愛し、1896年(明治29年)には「夏は来ぬ」(卯の花の匂ふ垣根に)という唱歌(佐佐木信綱作詞、小山作之助作曲)も作られていた。それだけに赤いバラの花を歌い上げた朔風訳「野ばら」は当時では斬新な西洋趣味の歌曲であった。しかし、朔風が訳詞曲を発表した明治末から大正初めにかけての音楽教育は文部省が編集した教科書『尋常小学唱歌』を使用しており、『尋常小学唱歌』の唱歌は日本人の作詞、作曲に限り訳詞曲を採用せず、バラの唱歌も作らなかった。朔風は1915年(大正4年)に35歳で急逝したが、昭和戦後期になると訳詞曲も教材にできるようになったので、音楽教科書の出版社は朔風訳によるシュー

ベルトやウェルナーの「野ばら」を採用した。こうして戦後の音楽教育は朔風訳「野ばら」によりバラの歌を日本に定着させていったのである。日本人がバラの歌を作ることも珍しくなくなり、中でも1966年（昭和41年）の浜口庫之助作詞、作曲「ばらが咲いた」（ばらが咲いた ばらが咲いた／真赤なばらが／さびしかったぼくの庭に／ばらが咲いた）は第8回レコード大賞作曲賞を受けている。

しかしながら、朔風訳「野ばら」を扱う音楽教育の本音はリート Lied（芸術歌曲）を原語で歌うことであった。音楽教育としては西洋のリートは原語歌唱が望ましいのであるが、児童・生徒には外国語の壁があるためにやむを得ず訳詞曲を歌わせているのである⁽⁴⁾。朔風訳「野ばら」も「Heidenröslein」の日本語版なのであり、多くの日本人は朔風訳「野ばら」を歌っても朔風の訳詞曲に独自の価値があるとは考えなかった。それでも、日本の音楽教育は最初の『小学唱歌集』から西洋曲の旋律に日本語の歌詞をつけていたのであり、最近では西洋以外の国々の歌にも日本語の歌詞をつけて指導している⁽⁵⁾。こうしてみると訳詞曲は日本人が異文化の音楽を学習し消化するための常套手段であったことがわかり、訳詞曲は日本人の歌のレパートリーを豊かにするのに少なからず貢献したと言えるのではないか。そこで音楽教科書における朔風の訳詞曲の採用の実態を調査し、児童・生徒へ諸外国の音楽への扉を開くために訳詞曲を使用してきた音楽教育の伝統の一面を明らかにする。

2. 音楽教科書に採用された朔風の訳詞曲

小学校、中学校、高等学校の音楽教科書における朔風の訳詞曲の採用状況を把握するには『音楽教科書掲載作品10000（歌い継がれる名曲案内）』（日外アソシエーツ2011）が役立つ。これは1949年（昭和24年）から2009年（平成21年）までの期間に音楽教科書を発行した出版社24社に採用された作品の目録である。なお2015年（平成27年）までの採用状況については筆者は教科書研究センター附属教科書図書館で調査した。

まず表1には音楽教科書出版社24社が採用した朔風の訳詞曲と原曲のタイトルを原曲の作曲家別にまとめた。その結果、教科書に採用された朔風の訳詞曲は「野ばら」を含め全28タイトルである。原

表1. 音楽教科書に採用された近藤朔風の訳詞曲（作曲家別）

作曲家	近藤朔風の訳詞曲と原曲のタイトル
①ベートーヴェン (1770-1827)	(1) 稜威 原曲: Die Ehre Gottes aus der Natur
	(2) 自然における神の栄光 (神の栄光) 原曲→(1) と (2) は原曲同じ。
②クロイツェル (1780-1849)	(3) 神殿 原曲: Die Kapelle
③ウェーバー (1780-1849)	(4) 野ばら・道ばたのばら 原曲: Ich sah ein Röschen am Wege stehn
	(5) ふなうた 原曲: Barcarolle (Oberon)
④ジルヒャー (1789-1860)	(6) ローレライ 原曲: Lorelei
⑤シューベルト (1797-1828)	(7) 子守歌 原曲: Wiegenlied
	(8) 野ばら 原曲: Heidenröslein
	(9) 春の力 原曲: Frühlingsglaube
	(10) 菩提樹 原曲: Der Lindenbaum
⑥ベイリー (1797-1839)	(11) 久しき昔・ロングロングアゴ 原曲: Long, Long Ago
⑦ウェルナー (1800-1833)	(12) 野ばら 原曲: Heidenröslein
⑧メンデルスゾーン (1809-1847)	(13) うぐいす 原曲: Die Nachtigall
⑨ショパン (1810-1849)	(14) 乙女のねがい 原曲: Mädchen Wunsch
⑩シューマン (1810-1856)	(15) 早春 原曲: Erstes Grün
	(16) はちすの花 (はすの花) 原曲: Die Lotosblume
⑪リスト (1811-1886)	(17) 花かそもなれ 原曲: Du bist wie eine Blume
⑫ナイト (1811-1886)	(18) たゆとう小舟 原曲: Rocked in the Cradle of the Deep
⑬ワーグナー (1811-1886)	(19) 紡ぎ歌 原曲: Spinnerchor (Der fliegende Holländer)
⑭ライトン (1811-1886)	(20) ほととぎす 原曲: Her bright smile haunts me still
	(21) 暗路 原曲→(20) と (21) は原曲同じ。
⑮グノー (1818-1893)	(22) セレナーデ 原曲: Sérénade
	(23) 夜の調べ 原曲→(22) と (23) は原曲同じ。
⑯アプト (1819-1885)	(24) 別離 原曲: Wenn die Schwallen heimwärts zieh'n
⑰サラサーテ (1844-1908)	(25) チゴイネルワイゼン 原曲: Zigeunerweisen
	(26) 汝がとも 原曲→(25) と (26) は原曲同じ。
⑱ゴダール (1849-1895)	(27) ジョスランの子守歌 原曲: Berceuse (Jocelyn)
⑲ベルク 生没年不明	(28) 草笛 原曲: Der Hirt

曲は独語、英語、仏語の歌曲で、その作曲家をみるとベートーヴェン、クロイツェル、ウェーバー、ジルヒャー、シューベルト、バイリー、ウェルナー、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト、ナイト、ワーグナー、ライトン、グノー、アプト、サラサーテ、ゴダール、ベルク、以上19名を数え、朔風は音楽史のビッグネームの作曲家の芸術歌曲だけでなく小作曲家の通俗的な歌曲も訳していた。

次に表2には2015年に平成27年度用の音楽教科書を発行した3社—小・中学校では教育芸術社と教育出版社の2社、高等学校では教育芸術社、教育出版社、音楽之友社の3社—を対象にして、朔風の訳詞曲の採用状況を学校種別、出版社別にまとめた。以下、出版社は教芸、教出、友社と略記する。また小学校、中学校、高等学校は[小]、[中]、[高]

と略記する。

まず表1に示す朔風の訳詞曲全28タイトルのうち3タイトル(稜威、早春、セレナーデ)については教芸、教出、友社は採用しなかった。残り25タイトルの採用状況の内訳は次のとおりである。

① [中] のみに採用された朔風の訳詞曲：4タイトル

→たゆとう小舟(教芸、教出)、チゴイネルワイゼン(教出)、ほととぎす(教芸、教出)、暗路(教芸、教出)

② [高] のみに採用された朔風の訳詞曲：12タイトル

→うぐいす(教芸)、乙女のねがい(友社)、草笛(教芸)、自然における神の栄光・神の栄光(教芸、友社)、神殿(教芸)、紡ぎ歌(教出)、

表2. 音楽科教科書に掲載された近藤朔風の訳詞曲 (50音順, 1949年~2015年)

通し番号	タイトル	小学校		中学校		高等学校		
		教芸	教出	教芸	教出	教芸	教出	友社
1	稜威							
2	うぐいす					○		
3	乙女のねがい							○
4	草笛					○		
5	子守歌(シューベルト)	○	○	○		○		
6	自然における神の栄光(神の栄光)					○		○
7	ジョスランの子守歌				○	○	○	○
8	神殿					○		
9	セレナーデ							
10	早春							
11	たゆとう小舟			○	○			
12	チゴイネルワイゼン				○			
13	紡ぎ歌						○	
14	汝がとも					○		○
15	野ばら(ウェーバー)・道ばたのばら			○		○	○	
16	野ばら(ウェルナー)	○	○	○	○	○	○	○
17	野ばら(シューベルト)			○	○	○	○	○
18	はちすの花(はすの花)					○	○	○
19	花かそもなれ					○		
20	春の力					○		
21	久しき昔・ロングロングアゴー			○	○			○
22	ふなうた			○	○	○		
23	別離					○		
24	菩提樹			○	○	○	○	○
25	ほととぎす			○	○			
26	暗路			○	○			
27	夜の調べ					○	○	○
28	ローレライ			○	○		○	○

備考：音楽科教科書の出版社は教芸(教育芸術社)、教出(教育出版社)、友社(音楽之友社)の3社を対象とする。

汝がとも(教芸, 友社), はちすの花・はすの花(教芸, 教出, 友社), 花かそもなれ(教芸), 春の力(教芸), 別離(教芸), 夜の調べ(教芸, 教出, 友社)

③ [中] と [高] に採用された朔風の訳詞曲: 7 タイトル

→ジョスランの子守歌(教出), 野ばら(ウェーバー)・道ばたのぼら(教芸), 野ばら(シューベルト)(教芸, 教出), 久しき昔・ロングロングアゴー(教芸, 教出, 友社) ふなうた(教芸), 菩提樹(教芸, 教出), ローレライ(教出)

④ [小] と [中] と [高] に採用された朔風の訳詞曲: 2 タイトル

→子守歌(シューベルト)(教芸), 野ばら(ウェルナー)(教芸, 教出)

なお朔風の訳詞曲の中で [小] のみに採用された訳詞曲, [小] と [中] に採用された訳詞曲はなかった。教芸, 教出, 友社の発行年別の採用状況は「資料」として文末に添付する。以下, 教科書の発行年は1949年から2015年までを対象に下2桁で示し, 1949年は49年, 2015年は15年のように記す。ちなみにシューベルトの「野ばら」は早くは教芸・中3の50年版に採用され, 最近では教出・高1と友社・高1の13年版に採用された。またウェルナーの「野ばら」に早くは教芸・中2の50年版に採用され, 最近では教芸, 教出, 友社3社とも高1の13年版に採用された。

3. 朔風の訳詞曲の採用の変遷

次に文末の資料に基づき, 朔風の訳詞曲の採用状況を時代を追って跡づけてみよう。前述のように教芸, 教出, 友社が採用した朔風の訳詞曲は全部で25タイトルあったが, 1950年代には次の24タイトルが採用されていた。

うぐいす [高], 乙女のねがい [高], 草笛 [高], 子守歌(シューベルト) [小・中・高], 自然における神の栄光・神の栄光 [高], ジョスランの子守歌 [中・高], 神殿 [高], たゆとう小舟 [中], 紡ぎ歌 [高], 汝がとも [中・高], 野ばら・道ばたのぼら(ウェーバー) [中・高], 野ばら(ウェルナー) (小・中・高), 野ばら(シューベルト)

(中・高), はちすの花・はすの花 [高], 花かそもなれ [高], 春の力 [高], 久しき昔・ロングロングアゴー [中・高], ふなうた [中・高], 別離 [高], 菩提樹 [中・高], ほととぎす [中], 暗路 [中], 夜の調べ [高], ローレライ [中]

1960年代にはいると朔風の訳詞曲の採用は激減し, 次の15タイトルになる。

子守歌(シューベルト) [小・中・高], 自然における神の栄光・神の栄光 [高], ジョスランの子守歌 [高], チゴイネルワイゼン [中], 汝がとも [高], 野ばら・道ばたのぼら(ウェーバー) [高], 野ばら(ウェルナー) [小・高], 野ばら(シューベルト) [中・高], はちすの花・はすの花 [高], 久しき昔・ロングロングアゴー [中], ふなうた [中], 菩提樹 [中・高], ほととぎす [中], 夜の調べ [高], ローレライ [中・高]

1970年代には朔風の訳詞曲の採用は次の10タイトルである。

自然における神の栄光・神の栄光 [高], ジョスランの子守歌 [高], 野ばら・道ばたのぼら(ウェーバー) [高], 野ばら(ウェルナー) [高], 野ばら(シューベルト) [高], はちすの花・はすの花 [高], 菩提樹 [中・高], ほととぎす [中], 夜の調べ [高], ローレライ [高]

1980年代の朔風の訳詞曲の採用はさらに減って次の6タイトルであり, 70年代まで歌われた最後の英語の訳詞曲(久しき昔・ロングロングアゴー, ほととぎす)と仏語の訳詞曲(ジョスランの子守歌, 夜の調べ)が姿を消して独語の訳詞曲のみとなる。

野ばら・道ばたのぼら(ウェーバー) [高], 野ばら(ウェルナー) [中・高], 野ばら(シューベルト) [高], はちすの花・はすの花 [高], 菩提樹 [中・高], ローレライ [中・高]

1990年代には朔風の独語の訳詞曲の採用は次の5タイトルである。「野ばら」(ウェルナー), 「野ばら」(シューベルト), 「菩提樹」, 「ローレライ」の4曲は従来通りで, 70年代, 80年代には姿を消して

いた「ふなうた」が一時的に復活した。

野ばら（ウェルナー）[中・高]，野ばら（シューベルト）[中・高]，ふなうた [高]，菩提樹 [高]，ローレライ [中・高]

2000年代の朔風の訳詞曲の採用は次の5タイトルである。「野ばら」（ウェルナー）、「野ばら」（シューベルト）、「ローレライ」の3曲は従来通りである。そして70年代から90年代にかけて姿を消していた「子守歌」が小学校で2000年に1度だけ復活し、90年代に姿を消していた「はすの花」が高等学校で復活する一方で「菩提樹」は姿を消した。

子守歌（シューベルト）[小]，野ばら（ウェルナー）[高]，野ばら（シューベルト）[高]，はすの花 [高]，ローレライ [高]

2010年以後は朔風の訳詞曲の採用は高等学校のみとなり、「野ばら」（ウェルナー）、「野ばら」（シューベルト）、「はすの花」の3タイトルになった。「ローレライ」は姿を消した。

野ばら（ウェルナー）[高]，野ばら（シューベルト）[高]，はすの花 [高]

以上、朔風の訳詞曲の中ではシューベルトとウェルナーの「野ばら」が1950年代から現在まで採用され続けていた。

3. 教科書の中の朔風訳「野ばら」

半世紀以上も教科書に採用されていることからみても、朔風の訳詞曲を代表するのが「野ばら」である。朔風訳「野ばら」は共通教材に指定されたことは一度もないので、その採用には教科書出版社の編集方針によるところが大きい。そこで教芸、教出、友社の教科書における朔風訳「野ばら」の採用の仕方を検討する。

（1）教科書の中の朔風訳「野ばら」（シューベルト）

まず教芸における朔風訳「野ばら」（シューベルト）の扱い方をみる。教芸は小学校では採用しなかった。ただし小5の56、57年版、小4の71、74年版

では原曲を鑑賞教材とした。中学校では中3での採用であるが（50、51、52、53、54、55、56、57、58、62、66年版）、一時期、中2での採用もあった（54、55年版）。朔風訳「野ばら」は1950年代、60年代には歌唱教材であったが、1980年代以後は中1におけるシューベルト作曲のリート「魔王 Der Erlkönig」の鑑賞の関連教材として朔風訳「野ばら」を採用するようになった（81、84、06年版）。中でも06年版では「Heidenröslein（野ばら）」と独語のタイトルをつけ、楽譜には独語の原詞と朔風の訳詞を併記しており、中学校の教科書の扱いとしては珍しい。高等学校では朔風訳でシューベルトの「野ばら」とウェルナーの「野ばら」をセットにして採用するのが一般的である（高校用の58、60、68、71年版。高1の73、76、82、85、88、91、94、98、03、07、13年版）。そして、シューベルトの「野ばら」は独唱または斉唱用（ピアノ伴奏あり）、ウェルナーの「野ばら」は合唱用（無伴奏）として扱うことが多く、その場合には両曲の調性は変ホ長調に統一した（ちなみに原調はシューベルトの「野ばら」はト長調、ウェルナーの「野ばら」はホ長調である）。当初、楽譜には朔風の訳詞のみを掲載したが（高校用の58年版と60年版）、独語の原詞（1番のみ）と朔風の訳詞（3番まで）を併記することが定着した。原詞の掲載を1番のみにしているのはドイツ語を教科目に置く高等学校が少ないための措置であろうが、それでも独語歌唱を勧めているのは明らかである。そして94、98、03、07年版になると教芸が発行する2種類の高1の教科書のうち、楽譜に朔風の訳詞を掲載するのは1種類のみとなり（94、98、03年版は「高校生の音楽1」、07年版は「MOUSA1」が朔風の訳詞を掲載する）、13年版では2種類（「MOUSA1」、「高校生の音楽1」）ともに朔風の訳詞を取り除き、独語の原詞のみを掲載した。

次に教出における朔風訳「野ばら」（シューベルト）の扱い方をみる。教出でも小学校では朔風訳「野ばら」を採用しなかったが、教芸とは異なり勝承夫訳「野ばら」を採用した（小4の59、60年版）。勝承夫訳「野ばら」は「わらべは見たり／野なかのばら／あしたののべに／清らにかおる／夢みる花よ／紅もゆる／やさしのばら」というもので朔風訳より平易な言葉を選んでいるが情感は薄まっている。小5の55、59年版、小4の77年版では原曲を鑑賞教材としており、小4の77年版はシューベルトを

独唱で、ウェルナーを合唱で聞き比べることを奨励した。中学校では朔風訳「野ばら」を中3の54年版と中2の57年版に採用する一方で、勝承夫訳も中3の53年版と中2の58年版に採用した。そして教出は教芸よりも早く1960年代から中1の「魔王」鑑賞の関連教材として朔風訳「野ばら」を採用していた(中1の66, 69, 87, 90, 93, 97年版)⁽⁶⁾。高等学校では朔風訳「野ばら」は高2(71年版)や高3(87年版)の採用もあったが、1990年代になると教芸と同様に高1でシューベルトの「野ばら」(独唱または斉唱)とウェルナーの「野ばら」(合唱)をセットにして採用し、独語の原詞と朔風の訳詞を併記するようになった(高1の94, 98, 03, 07, 13年版)。

友社も高等学校ではシューベルトの「野ばら」(独唱または斉唱)とウェルナーの「野ばら」(合唱)をセットで採用し、楽譜には独語の原詞と朔風の訳詞を併記するようになった。採用学年は高1が主であるが(高校用の60年版。高1の63, 67, 70, 73, 76, 82, 85, 88, 91, 94, 98, 03, 07, 13年版)、一時期、高2でも採用していた(高2の83, 86, 89, 92年版)。13年版になると友社発行の2種類の教科書「ON!1」, 「高校生の音楽1」のうち後者は楽譜から朔風訳をとりのぞき独語の原詞のみを掲載した。

(2) 教科書の中の朔風訳「野ばら」(ウェルナー)

まず教芸における朔風訳「野ばら」(ウェルナー)の扱い方をみる。小学校では小5で朔風訳を採用した(51, 52, 53, 55年版)。しかし朔風訳よりも勝承夫訳の方を多く採用した(小5の54, 58, 59年版。小6の61, 65, 68, 71 74年版)。小5の56, 57年版は「文部省唱歌」として「野ばら」を採用したがその歌詞は勝承夫の訳詞である。そして「野ばら」(ウェルナー)は2部合唱の教材としても扱われた(調性はハ長調とする)。中学校では1950年代には中2に朔風訳を採用した(50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58年版)が、60年代には中2に勝承夫訳を採用した(66, 69年版)。したがって教芸では中2でウェルナーの「野ばら」, 中3でシューベルトの「野ばら」を朔風訳または勝承夫訳で歌わせている。高等学校ではシューベルトの「野ばら」(独唱または斉唱)とウェルナーの「野ばら」(合唱)をセットで採用し、楽譜には独語の原詞と朔風の訳詞を併記した。高等学校では朔風訳が主であるが、勝承夫訳も採用されていた(高校用の63年版, 高2の55年版)。シューベルトの「野ばら」とは異なり、

楽譜から朔風の訳詞は削除されなかった。

教出は小学校では朔風訳の採用もあるが(小5の62年版, 小6の62年版), 50年代, 60年代は勝承夫訳の方が主であり(小5の52, 53, 55, 59, 61, 65, 68年版, 小6の62年版), 教芸と同様に2部合唱の教材としても扱われた。小5の55, 59年版ではシューベルトの「野ばら」の鑑賞も奨励している。なお, 教出ではウェルナーの原曲を90年代に器楽教材として採用していた(小5の92, 96年版)。中学校では教出は教芸とは異なり中3で「野ばら」を採用した。50年代には勝承夫訳で採用したが(54, 58年版), 80年代, 90年代には朔風訳による混声3部合唱の教材として採用した(調性は変ホ長調とする。中3の87, 90年版。中2・3上の93, 97年版)。なお, 教出でもウェルナーの原曲を中学校の器楽教材としての採用した時期もあった(中学用78, 81, 87年版)。高等学校では高1で朔風訳を採用した(82, 85, 88 91年版)。朔風訳でシューベルトの「野ばら」(独唱または斉唱)とウェルナーの「野ばら」(合唱)をセットにして採用するのは教芸よりも遅く, 高1の94年版以後である。

友社は高1で朔風訳を採用し, 1970年代からシューベルトの「野ばら」(独唱または斉唱)とウェルナーの「野ばら」(合唱)をセットにして採用した。一時期, 高2でも採用していた。シューベルトの「野ばら」とは異なり, ウェルナーの「野ばら」では楽譜から朔風の訳詞は削除することはなかった。

4. ドイツリート之窗となった朔風の訳詞曲

朔風の没後100年にあたる2015年は, 作曲家, 指揮者として近代日本の音楽界の第一人者となった山田耕筰(1886-1965, 明治19年-昭和40年)の没後50年にもあたる。音楽界に与えた影響力という点では耕筰は朔風をはるかにしのいでおり, 現実には2015年は朔風ではなく耕筰のメモリアルイヤーとして注目されている⁽⁷⁾。ただし, 朔風が訳詞曲を発表していた明治末から大正初めにかけては, 耕筰は作曲を学ぶためにベルリン高等音楽学校に留学中であり, 当時の日本人の作曲レベルでは日本語によるリートは望めなかった。耕筰の帰国は1914年(大正3年)12月で朔風の死の直前であり, 朔風と耕筰に交流があったのか否かは不明であるが, 耕筰が「からたちの花」(1925年), 「赤とんぼ」(1927

年),「この道」(1927年)等の代表曲を生み出す時期は大正末から昭和の初めにかけてであり,朔風の死から10年以上も後のことであった。それでも「からたちの花」以前,1917年(大正6年)に耕筈は三木露風の詩による歌曲「野薔薇」(野ばら野ばら/蝦夷地の野ばら/人こそ知らね/あふれさく/いるもうるわし/野のうばら/蝦夷地の野ばら)を作曲したことに注目したい⁽⁸⁾。露風の歌詞には「野ばら」と「野のうばら」が混在しているが,この「野ばら」はバラ科でもハマナスの赤い花を指すとされており(家森2000:214),ドイツで学んだ耕筈は日本化した「Heidenröslein」を書いていたのである。教芸は同じタイトルであるのに着目したらしく,60年版高等学校用教科書「高校音楽 全」では耕筈の「野ばら」(教芸の記載に従う),朔風訳ウェルナーの「野ばら」,朔風訳シューベルトの「野ばら」の3種の「野ばら」を採用し,日本語と独語のリートを歌い比べるように編集した。教科書の中でのこととはいえ,耕筈と朔風の「野ばら」が同列に扱われている。そのような60年の前後の時代こそ,昭和戦後の教育改革による音楽教育の青春時代であり,外国曲が解禁されたのを受けて出版社は小学校,中学校,高等学校の音楽教科書に西洋名曲として朔風の独語,英語,仏語の訳詞曲を一斉に採用した。しかし60年代が過ぎ去ると教科書に採用される朔風の訳詞曲は熱が冷めたように激減した。ただし独語の訳詞曲—シューベルトの「野ばら」とウェルナーの「野ばら」,シューベルトの「菩提樹」,ジルヒャーの「ローレイ」の4曲は採用が続き,独唱・斉唱や合唱で歌われるほか器楽合奏や鑑賞の場でも使用された。これらの4曲は朔風訳によって日本人の歌となったと言ってもよいのではないか。

しかし,音楽教育としては朔風の訳詞曲はリートの代替品であり,朔風の訳詞曲から原曲に忠実な独語歌唱へと誘導し,「本物」のリートを学習させたいのである。その結果,平成日本では朔風の訳詞曲は小・中学校の音楽の教科書からは姿を消した。高等学校ではかつては小・中学校でも歌われた朔風訳のシューベルトおよびウェルナーの「野ばら」が高1の教材に引き上げられ,タイトルも「Heidenröslein(野ばら)」と独語を主とする表記になった。従来から高等学校の「野ばら」は楽譜に独語の原詞と朔風の訳詞が併記されていたが,1990年代にはいると朔風の訳詞をはずして独語のみを記載する動きも出

てきて原語歌唱を重視する姿勢がより鮮明になっている。そして高1の「野ばら」に続き高2では朔風訳によるシューマンの「はすの花Die Lotosblume」が採用されている(教芸・高2の08,14年版「MOUSA 2」)。なお教出・高2の14年版では大木惇夫,伊藤武雄共訳「はすの花」が採用されている)。朔風の訳詞曲は1950年代に西洋諸国の名曲を児童・生徒に紹介する役割を担って教科書に登場したが,今日ではドイツリートを学習するための窓口であればよく,音楽教育での役割はより限定的になっている。しかし,音楽教育が原曲のリートを尊重するあまり,訳詞を原曲理解のための手段という狭い枠に押し込めてしまっているのなら,それは外国曲も訳詞で歌いこなして自らのレパートリーに加えてきた日本人の旺盛で柔軟な感性を不当に低く評価しているのではないだろうか。

注.

- (1)「野中の薔薇」の1番は現行の歌詞と同じであるが,「野ばらの花」の1番は「童は見出でぬ/野ずゑのぼら/若やかに咲く/その色めでつ/飽かずながむ/淡紅の/野ずゑのぼら」となっている。
- (2)1911年(明治44年)の高安月郊作詞,梁田貞作曲「昼の夢」の歌いだしは「薔薇花咲く/かげに伏して」である。
- (3)茨の白い花と赤い実については,松尾芭蕉の『奥の細道』の中の「卯の花の白妙に,茨の花の咲き添ひて」という一文や飯田龍太の俳句「野茨の実のくれなるに月日去る」が参考になる。
- (4)音楽教育界では「ドイツ語で作曲された「野ばら」は原語で歌われるべきものである。日本語は対訳として参考に付されるべきものである」(井戸・矢内2006)と考えている。
- (5)一例をあげると教芸・小5の2015年版「小学生の音楽5」には安西薫訳の朝鮮半島民謡「アリラン」(アリランアリランアラリヨ/アリラン峠の道遠く)や花岡恵訳の中国民謡「まつり花」(風にゆれてるまつり花)が採用されている。
- (6)「魔王」の関連教材としては朔風訳「野ばら」のほか朔風訳「菩提樹」も採用された(教芸・中1の87,90,93年版,教出・中1の66,69年版)。
- (7)NHK教育では「時代を楽譜に刻んだ男 山田耕筈」という特集番組を組んだ(2015年10月2日放送)。

(8) 1916年から17年にかけての耕筰作品は器楽曲が多く、「歌曲の創作からは遠ざかっていた時代」(後藤1989)とされる。それにもかかわらず作曲された歌曲がシューベルトと同じタイトルの「野薔薇」であった。これは単なる偶然とは思えず、当時の耕筰は日本語によるリートを生み出そうと格闘していたのではないだろうか。

井戸和秀・矢内淑子(2006)「言語の違いが音楽の感得に与える影響」『岡山大学教育学部研究集録』第131号, 93-99頁

後藤暢子[編集・校訂](1989)『山田耕筰作品全集第5巻 独唱曲1』序 東京:春秋社

坂本麻実子(1997)「近藤朔風とその訳詞曲再考」『富山大学教育学部紀要 A文科系』3月, 11-22頁

日外アソシエーツ(2011)『音楽教科書掲載作品10000(歌い継がれる名曲案内)』東京:日外アソシエーツ

参考文献

家森長治郎(2000)『若き日の三木露風』大阪:和泉書院

磯田光一(1991)「小学唱歌」考(『鹿鳴館の系譜—近代日本文芸史誌』収録, 初版1983, のち『磯田光一著作集5』収録), 東京:小沢書店

(2015年10月20日受付)

(2015年12月9日受理)

資料: 音楽科教科書に掲載された近藤朔風の訳詞曲

発行年	校種	訳 詞 曲 名
50	[中]	教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J2 野ばら(ウエルナー), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J1 菩提樹, 教芸 J2 暗路, 教芸 J1 ローレライ
	[高]	教芸 H2 うぐいす, 教芸 H1 草笛, 教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H3 神殿, 教芸 H1 野ばら(ウェーバー), 教芸 H3 はちすの花, 教芸 H1 春の力, 教芸 H2 ふなうた, 教芸 H1 別離, 教芸 H3 夜の調べ
51	[小]	教芸 E5 野ばら(ウエルナー)
	[中]	教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J2 野ばら(ウエルナー), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J1 菩提樹, 教芸 J2 暗路, 教芸 J1 ローレライ
52	[高]	教芸 H2 うぐいす, 教芸 H1 草笛, 教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H3 神殿, 教芸 H1 野ばら(ウェーバー), 教芸 H3 はちすの花, 教芸 H1 春の力, 教芸 H2 ふなうた, 教芸 H1 別離, 教芸 H3 夜の調べ
	[小]	教芸 E5 野ばら(ウエルナー)
53	[中]	教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J2 野ばら(ウエルナー), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J1 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
	[高]	教芸 H1 草笛, 教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H1 汝がとも, 教芸 H3 はちすの花, 教芸 H2 花かそもなれ, 教芸 H2 ふなうた, 教芸 H3 夜の調べ
54	[小]	教芸 E5 野ばら(ウエルナー)
	[中]	教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J3 汝がとも, 教芸 J2 野ばら(ウエルナー), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J1 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
55	[中]	教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J3 汝がとも, 教芸 J2 野ばら(ウエルナー), 教芸 J2 野ばら(シューベルト), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
	[高]	教芸 H1 草笛, 教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H2 ジョスランの子守歌, 教芸 H1 汝がとも, 教芸 H2 野ばら(ウエルナー), 教芸 H3 はちすの花, 教芸 H2 花かそもなれ, 教芸 H2 ふなうた, 教芸 H3 夜の調べ
56	[中]	教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J2 野ばら(ウエルナー), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J2 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
	[高]	教芸 H1 草笛, 教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H2 ジョスランの子守歌, 教芸 H1 汝がとも, 教芸 H2 野ばら(ウエルナー), 教芸 H3 はちすの花, 教芸 H2 花かそもなれ, 教芸 H2 ふなうた, 教芸 H3 夜の調べ

57	[中]	教芸 J1 子守歌(シューベルト), 教芸 J3 たゆとう小舟, 教芸 J3 汝がとも, 教芸 J2 野ばら(ウェーバー), 教芸 J2 野ばら(ウェルナー), 教芸 J2 野ばら(シューベルト), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J1 久しき昔, 教芸 J2 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
		教出 J3 ジョスランの子守歌, 教出 J2 野ばら(シューベルト), 教出 J1 ふなうた, 教出 J2 菩提樹, 教出 J2 暗路, 教出 J2 ローレライ
	[中]	友社 H1 久しき昔
58	[高]	教芸 E6 子守歌(シューベルト)
	[小]	教芸 J1 子守歌(シューベルト), 教芸 J2 野ばら(ウェルナー), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J3 ふなうた, 教芸 J2 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
		教出 J1 ふなうた, 教出 J2 菩提樹, 教出 J2 暗路, 教出 J2 ローレライ
	[中]	教芸 H 全子守歌(シューベルト), 教芸 H 全自然における神の栄光, 教芸 H 全野ばら(ウェルナー), 教芸 H 全野ばら(シューベルト), 教芸 H 全はちすの花, 教芸 H 全菩提樹, 教芸 H 全夜の調べ
		教出全 H 紡ぎ歌, 教出 H 全道ばたのばら, 教出 H 全はちすの花, 教出 H 全夜の調べ
		友社 H 下ジョスランの子守歌, 友社 H 下汝がとも, 友社 H 上久しき昔
60	[高]	教芸 H 全子守歌(シューベルト), 教芸 H 全自然における神の栄光, 教芸 H 全野ばら(ウェルナー), 教芸 H 全野ばら(シューベルト), 教芸 H 全はちすの花, 教芸 H 全菩提樹,
		友社 H 全ジョスランの子守歌, 友社 H 全汝がとも, 友社 H 全野ばら(シューベルト), 友社 H 全はちすの花, 友社 H 全夜の調べ
62	[高]	教芸 E6 子守歌(シューベルト)
		教出 E5 野ばら(ウェルナー), 教出 E6 野ばら(ウェルナー)
	[小]	教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J2 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
		教出 J1 チゴイネルワイゼン, 教出 J1 久しき昔, 教出 J2 ふなうた, 教出 J2 菩提樹, 教出 J2 ほととぎす, 教出 J2 ローレライ
63	[中]	教芸 H 全自然における神の栄光
		友社 H1 野ばら(シューベルト)
64	[高]	友社 H2 神の栄光, 友社 H2 ジョスランの子守歌, 友社 H2 夜の調べ
66	[高]	教芸 J1 子守歌(シューベルト), 教芸 J3 野ばら(シューベルト), 教芸 J2 菩提樹, 教芸 J2 ほととぎす, 教芸 J1 ローレライ
		教出 J1 野ばら(シューベルト), 教出 J1 久しき昔, 教出 J1 菩提樹, 教出 J3 ほととぎす, 教出 J1 ローレライ
67	[中]	友社 H1 野ばら(ウェルナー), 友社 H1 野ばら(シューベルト)
68	[高]	教芸 H 全野ばら(シューベルト), 教芸 H 全はちすの花
		教出 H2 道ばたのばら, 教出 H2 はちすの花, 教出 H2 ローレライ
		友社 H2 菩提樹,
69	[高]	教芸 J2 菩提樹, 教芸 J1 ローレライ,
		教出 J1 野ばら(シューベルト), 教出 J1 久しき昔, 教出 J1 菩提樹, 教出 J1 ローレライ,
70	[中]	教芸 H1 自然における神の栄光, 友社 H1 野ばら(ウェルナー), 友社 H1 野ばら(シューベルト),
71	[高]	教芸 H 全野ばら(シューベルト), 教芸 H 全はちすの花
		教出 H2 道ばたのばら, 教出 H2 野ばら(シューベルト), 教出 H2 はちすの花, 教出 H2 ローレライ
		友社 H2 神の栄光, 友社 H2 ジョスランの子守歌, 友社 H2 菩提樹, 友社 H2 夜の調べ
72	[高]	教芸 J2 菩提樹, 教芸 J1 ローレライ
		教出 J2 ほととぎす, 教出 J2 ローレライ
73	[中]	教芸 H1 野ばら(ウェルナー), 教芸 H1 野ばら(シューベルト), 教芸 H1 菩提樹
		友社 H1 野ばら(ウェルナー), 友社 H1 野ばら(シューベルト)
74	[高]	教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H2 はちすの花
		友社 H2 ジョスランの子守歌, 友社 H2 はちすの花, 友社 H2 菩提樹
75	[高]	教芸 J3 菩提樹
		教出 J2 ローレライ
	[中]	教出 H3 はちすの花
		友社 H3 夜の調べ
76	[高]	教芸 H1 野ばら(ウェルナー), 教芸 H1 野ばら(シューベルト), 教芸 H1 菩提樹
		友社 H1 野ばら(ウェルナー), 友社 H1 野ばら(シューベルト)
77	[高]	教芸 H2 自然における神の栄光, 教芸 H2 はちすの花
		友社 H2 ジョスランの子守歌, 友社 H2 菩提樹

78	[中]	教芸 J3 菩提樹, 教芸 J1 ローレライ
	[高]	教出 H3 はちすの花 友社 H3 ローレライ
81	[中]	教芸 J1 ローレライ
82	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー), 教芸 H1 野ばら (シューベルト), 教芸 H1 菩提樹
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト)
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト), 友社 H1 ローレライ
83	[高]	教出 H2 ローレライ
		友社 H2 野ばら (ウエルナー), 友社 H2 野ばら (シューベルト), 友社 H2 菩提樹
84	[中]	教芸 J1 ローレライ
85	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー), 教芸 H1 野ばら (シューベルト), 教芸 H1 菩提樹, 教出 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト), 友社 H1 ローレライ
86	[高]	教出 H2 菩提樹, 教出 H2 ローレライ, 友社 H2 野ばら (ウエルナー), 友社 H2 野ばら (シューベルト)
87	[中]	教出 J3 野ばら (ウエルナー), 教出 J3 菩提樹, 教出 J2 ローレライ
	[高]	教出 H3 野ばら (シューベルト)
88	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー), 教芸 H1 野ばら (シューベルト)
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 教出 H1 ローレライ
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト), 友社 H1 菩提樹, 友社 H1 ローレライ
89	[高]	教芸 H2 菩提樹
		教出 H2 菩提樹
		友社 H2 野ばら (ウエルナー), 友社 H2 野ばら (シューベルト), 友社 H2 菩提樹
90	[中]	教出 J3 野ばら (ウエルナー), 教出 J2 ローレライ
91	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー), 教芸 H1 野ばら (シューベルト), 教芸 H1 ふなうた
		教出 H1 野ばら (ウエルナー)
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト), 友社 H1 菩提樹, 友社 H1 ローレライ
92	[高]	教芸 H2 菩提樹
		友社 H2 野ばら (シューベルト), 友社 H2 菩提樹
93	[中]	教出 J2・3上野ばら (ウエルナー), 教出 J1 野ばら (シューベルト)
	[高]	友社 H3 ローレライ
94	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー), 教芸 H1 野ばら (シューベルト)
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 教出 H1 野ばら (シューベルト), 教出 H1 菩提樹, 教出 H1 ローレライ
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト), 友社 H1 ローレライ
95	[高]	友社 H2 菩提樹, 友社 H2 ローレライ
96	[高]	友社 H3 菩提樹
97	[中]	教出 J2・3上野ばら (ウエルナー), 教出 J1 野ばら (シューベルト)
98	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー)
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 教出 H1 野ばら (シューベルト), 教出 H1 菩提樹, 教出 H1 ローレライ
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト), 友社 H1 菩提樹, 友社 H1 ローレライ
99	[高]	教芸 H2 菩提樹
		友社 H2 菩提樹
00	[小]	教芸 E5 子守歌 (シューベルト)
	[高]	友社 H3 ローレライ
03	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー)
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 教出 H1 野ばら (シューベルト)
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト)
04	[高]	教出 H2 ローレライ
07	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー)
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 教出 H1 野ばら (シューベルト)
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト)
08	[高]	教芸 H2 はすの花
13	[高]	教芸 H1 野ばら (ウエルナー)
		教出 H1 野ばら (ウエルナー), 教出 H1 野ばら (シューベルト)
		友社 H1 野ばら (ウエルナー), 友社 H1 野ばら (シューベルト)
14	[高]	教芸 H2 はすの花

備考：訳詞曲名欄の E は小学校, J は中学校, H は高等学校, 学年を数字で示す。(例：J3→中学校 3 年, H全→高校用)。